

シーズ開発・研究基盤事業部

拠点研究事業課

事業案内



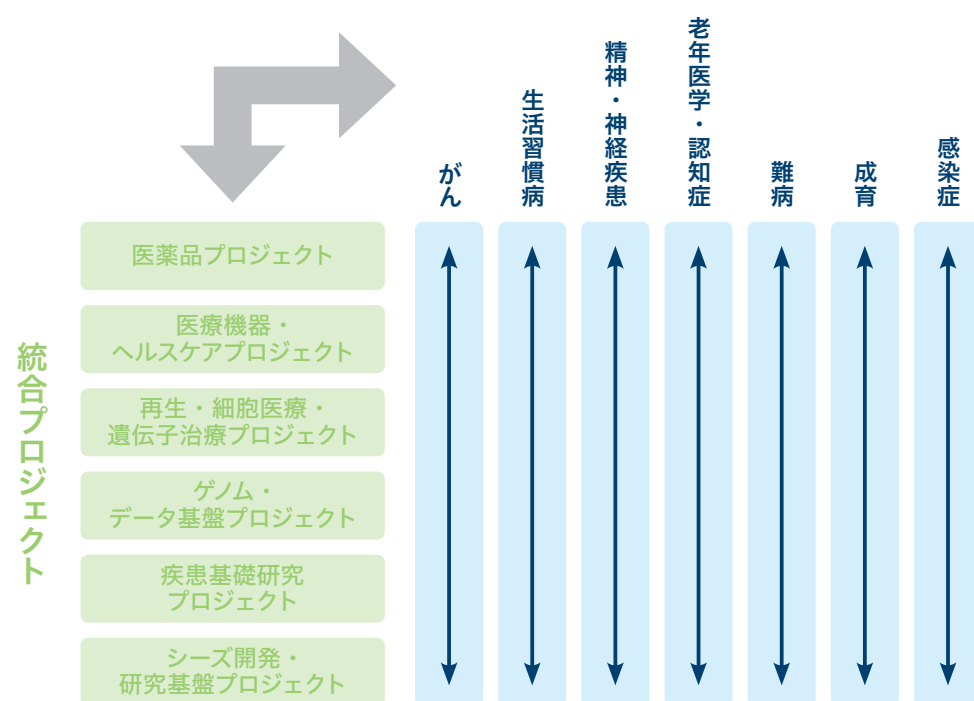
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

AMED 第二期中長期計画

第二期健康・医療戦略、中長期計画に定められた
6つの統合プロジェクトでの研究開発推進

AMEDで特定疾患ごとに柔軟にマネジメント

(プロジェクト横断的に対応できる体制、各疾患のコーディネーターの下で推進)



AMEDは、モダリティ等を軸とした6つの「統合プロジェクト」を定め、プログラムディレクター(PD)の下で、関係府省の事業を連携させ、基礎から実用化まで一元的に推進します。



疾患研究は統合プロジェクトを横断する形で、各疾患のコーディネーターによる柔軟なマネジメントができるよう推進します。



健康寿命延伸を意識し、「予防／診断／治療／予後・QOL」といった開発目的を明確にした技術アプローチを実施します。

プログラムディレクター

AMEDが平成27年に国立研究開発法人として発足して以来、第一期に、拠点研究事業課(旧・臨床研究課)においては、文部科学省における橋渡し研究事業と厚生労働省における早期・探索的臨床試験拠点整備事業や臨床研究中核病院整備事業等を統合して革新的医療技術創出拠点として一体的な整備を推進してきました。その結果、基礎研究の成果を一貫して実用化につながることで多くの医師主導治験届出件数とFIH(first-in-human)試験を実施致しました。第二期では、これまで整備された革新的医療技術創出拠点の機能を拡充・強化させ、基礎と実用化の橋渡しと事業間連携をより一層推進することで将来に繋がる研究課題の継続的な発掘と育成に取り組んでいこうと考えています。このために、他の5つのプロジェクトとの連携を深めると同時に、革新的先端研究開発支援事業における世界的な基礎研究成果からシーズを汲み上げ、さらに国際共同研究、技術導出、国際治験などへの発展などに繋げたいと思います。



プログラムディレクター

清水 孝雄

国立国際医療研究センター
脂質シグナリングプロジェクト
プロジェクト長

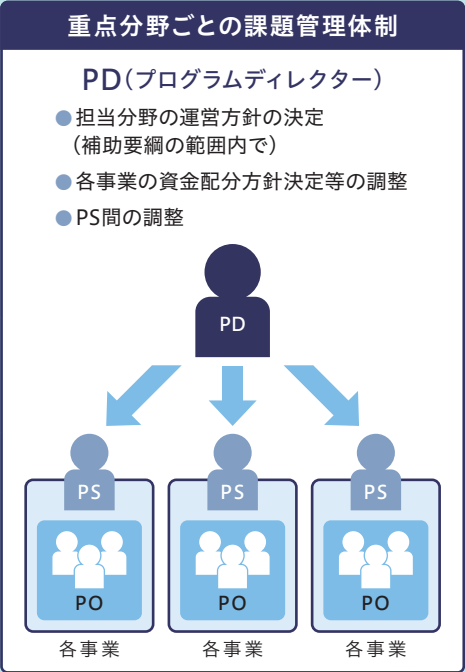
略歴

- 1973年** 東京大学医学部卒
東京大学医学部附属病院内科研修医
- 1975年** 京都大学医学部医化学教室
- 1982年** スウェーデンカロリンスカ研究所客員研究員
- 1984年** 東京大学医学部助教授
- 1991年** 東京大学医学部教授
- 1997年** 東京大学大学院医学系研究科教授
(大学院重点化に伴う組織改編)
- 2007年** 東京大学大学院医学系研究科長、同医学部長
- 2011年** 東京大学理事・副学長
- 2012年** 国立国際医療研究センタープロジェクト長
- 2013年** 国立国際医療研究センター理事・研究所長

シーズ開発・研究基盤プロジェクト

シーズ開発・研究基盤プロジェクトでは、アカデミアの組織・分野の枠を超えた研究体制を構築し、新規モダリティの創出に向けた画期的なシーズの創出・育成等の基礎的研究や、国際共同研究を実施します。また、革新的医療技術創出拠点においてシーズの発掘・移転や、質の高い臨床研究・治験の実施のための体制や仕組みを整備するとともに、リバース・トランスレーショナル・リサーチ(rTR)や実証研究基盤の構築を推進します。拠点研究事業課では、シーズの発掘・移転や質の高い臨床研究・治験の実施を促進することを目的として、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院における研究成果の実用化推進を支援しています。また、各種人材育成や官民実証基盤の体制整備、国際共同治験ネットワークの構築を進めています。

拠点研究事業課の事業管理体制について



研究開発課題の評価および運営は、その研究分野に関して優れた学識経験や実績等を有し、高い見識を有する専門家をプログラムディレクター(PD)、プログラムスーパーバイザー(PS)、プログラムオフィサー(PO)として配置しています。

- PDの役割
重点分野全体の課題を把握し、担当分野の運営や分野間の協力の推進等の高度な専門的調整を行います。また、担当する分野に関し、研究開発の加速が必要な事業の拡充や新規事業の追加等について理事長に提言を行います。
- PSの役割
担当する事業の目的および課題を把握し、事業の運営を行います。
- POの役割
PSを補佐して事業運営の実務を担います。

医療技術実用化総合促進事業／革新的医療シーズ実用化研究事業／研究開発推進ネットワーク事業



医療技術実用化総合促進事業
革新的医療シーズ実用化研究事業
研究開発推進ネットワーク事業
プログラム
スーパーバイザー
楠岡 英雄
国立病院機構
理事長



医療技術実用化総合促進事業
革新的医療シーズ実用化研究事業
研究開発推進ネットワーク事業
プログラムオフィサー
渡邊 裕司
浜松医科大学
理事／副学長



医療技術実用化総合促進事業
革新的医療シーズ実用化研究事業
研究開発推進ネットワーク事業
プログラムオフィサー
近藤 充弘
日本製薬工業協会
医薬品評価委員会 副委員長



医療技術実用化総合促進事業
革新的医療シーズ実用化研究事業
プログラムオフィサー
岡田 美保子
医療データ活用基盤整備機構
理事長

臨床研究・治験推進研究事業(生物統計家育成推進事業、アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業)



生物統計家育成推進事業
アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業
プログラム
スーパーバイザー
中西 洋一
北九州市立病院機構
理事長



生物統計家育成推進事業
アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業
プログラムオフィサー
佐藤 典宏
北海道大学病院
臨床研究開発センター
教授／センター長



アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業
プログラムオフィサー
近藤 充弘
日本製薬工業協会
医薬品評価委員会 副委員長

認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業



プログラム
スーパーバイザー
岩坪 威
東京大学
大学院医学研究科
教授



プログラムオフィサー
石井 伸弥
広島大学大学院
医系科学研究科
特任教授

橋渡し研究戦略的推進プログラム／橋渡し研究プログラム



橋渡し研究戦略的推進プログラム
プログラム
スーパーバイザー
中西 洋一
北九州市立病院機構
理事長



橋渡し研究プログラム
プログラム
スーパーバイザー
金倉 譲
住友病院
院長



橋渡し研究戦略的推進プログラム
橋渡し研究プログラム
プログラムオフィサー
稲垣 治
前日本製薬工業協会
医薬品評価委員会 幹事

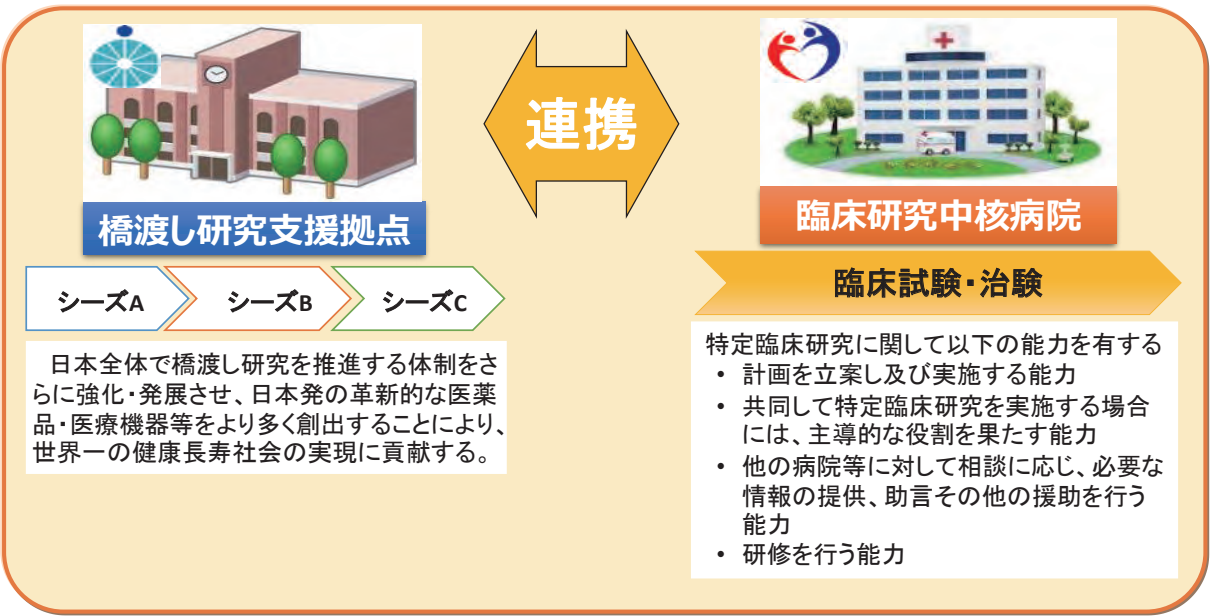


橋渡し研究戦略的推進プログラム
橋渡し研究プログラム
プログラムオフィサー
田代 聡
広島大学
原爆放射線医科学研究所
所長／教授

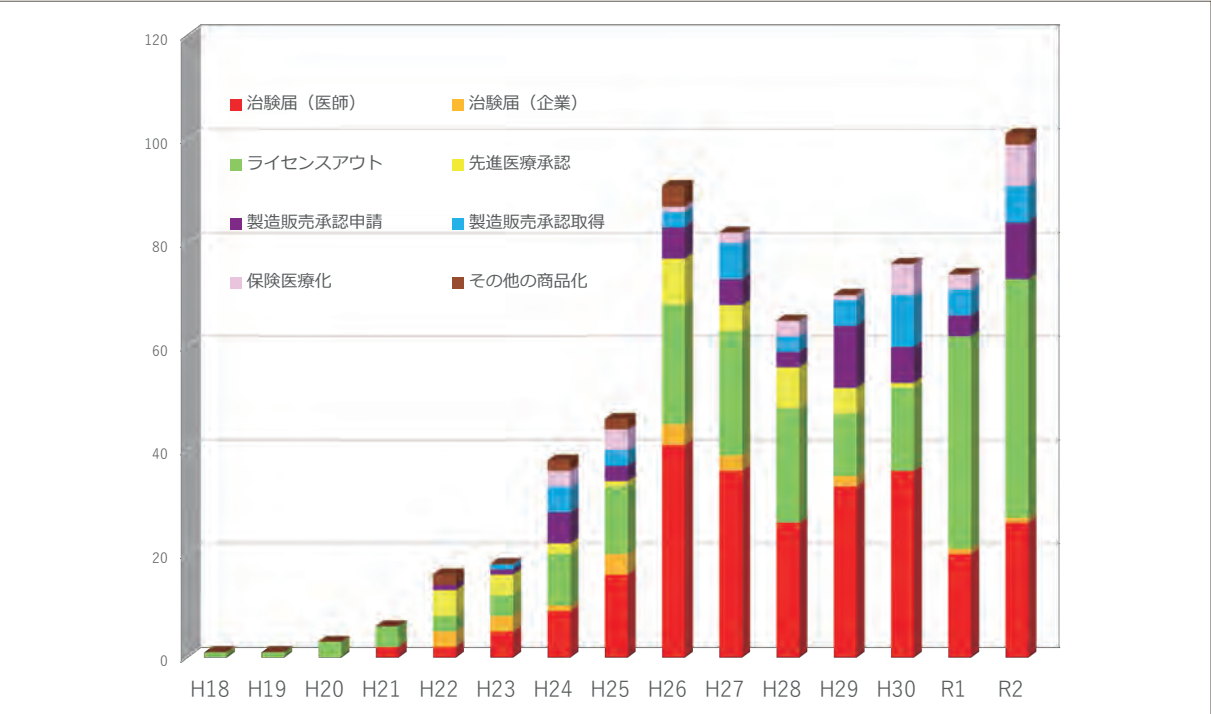
革新的医療技術創出拠点

文部科学省の推進事業である橋渡し研究戦略的推進プログラム／橋渡し研究プログラムと、厚生労働省の推進事業である医療技術実用化総合促進事業と革新的医療シーズ実用化研究事業を一元化した事業実施体制の整備を進めています。

革新的医療技術創出拠点では、橋渡し研究支援拠点や臨床研究中核病院等において、アカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐ体制を構築するもので、人材確保・育成を含めた拠点機能の強化やネットワーク化を目的とした複数の基盤整備事業とシーズを育成し実用化を目指す橋渡し研究や医師主導治験を支援する研究開発課題から構成されます。



革新的医療技術創出拠点 開発実績

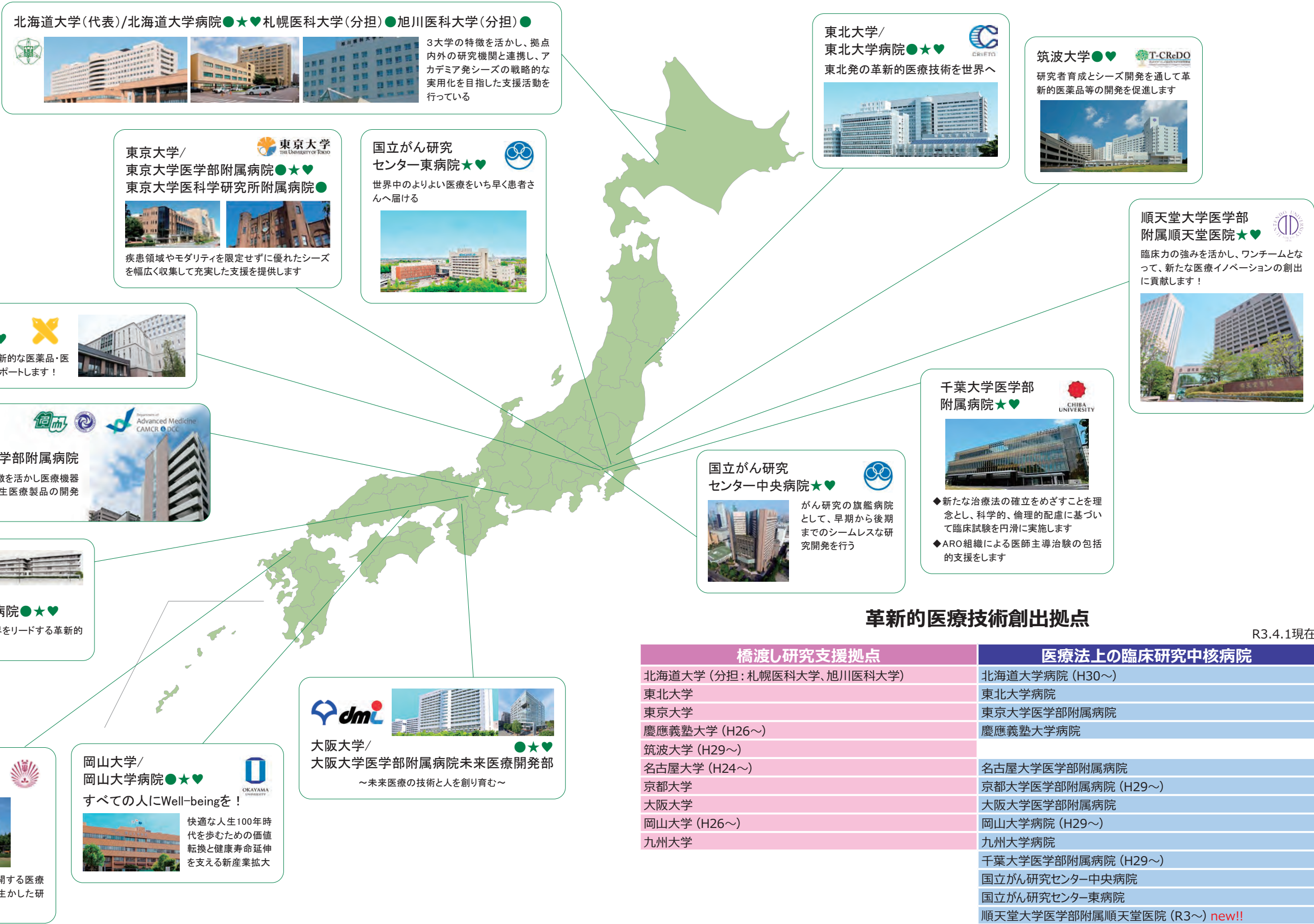


革新的医療技術創出拠点 連絡先一覧

拠点名称	問い合わせ先	URL
北海道大学／北海道大学病院 札幌医科大学(分担) 旭川医科大学(分担)	北海道大学病院 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構	http://crmic.huhp.hokudai.ac.jp/
東北大学／東北大学病院	東北大学病院 臨床研究推進センター	https://www.crieto.hosp.tohoku.ac.jp/
筑波大学	筑波大学つくば臨床医学研究開発機構	http://www.s.hosp.tsukuba.ac.jp/t-credo/
国立がん研究センター東病院	国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門	http://www.ncc.go.jp/jp/ncce/
千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院 臨床試験部	https://www.ho.chiba-u.ac.jp/crc/
東京大学／東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院 トランスレーショナルリサーチセンター	http://trac.umin.jp/hospital/
順天堂大学医学部附属順天堂医院	順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター	https://www.juntendo.ac.jp/jcrtc/
慶應義塾大学／慶應義塾大学病院	慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター	https://www.ctr.hosp.keio.ac.jp/
国立がん研究センター中央病院	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門	http://www.ncc.go.jp/jp/ncch/
名古屋大学／名古屋大学医学部附属病院	名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部	https://www2.nu-camcr.org/
京都大学／京都大学 医学部附属病院	京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構	http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~iact/
大阪大学／大阪大学 医学部附属病院	大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部	http://www.dmi.med.osaka-u.ac.jp/dmi/
岡山大学／岡山大学病院	岡山大学病院 新医療研究開発センター	http://shin-iryo.hospital.okayama-u.ac.jp/
九州大学／九州大学病院	九州大学病院 ARO 次世代医療センター	https://www.aro.med.kyushu-u.ac.jp/

革新的医療技術創出拠点紹介

● 橋渡し研究支援拠点 ★ 臨床研究中核病院 ♥ 認定臨床研究審査委員会(CRB)



革新的医療技術創出拠点

R3.4.1現在

橋渡し研究支援拠点	医療法上の臨床研究中核病院
北海道大学 (分担：札幌医科大学、旭川医科大学)	北海道大学病院 (H30～)
東北大学	東北大学病院
東京大学	東京大学医学部附属病院
慶應義塾大学 (H26～)	慶應義塾大学病院
筑波大学 (H29～)	
名古屋大学 (H24～)	名古屋大学医学部附属病院
京都大学	京都大学医学部附属病院 (H29～)
大阪大学	大阪大学医学部附属病院
岡山大学 (H26～)	岡山大学病院 (H29～)
九州大学	九州大学病院
	千葉大学医学部附属病院 (H29～)
	国立がん研究センター中央病院
	国立がん研究センター東病院
	順天堂大学医学部附属順天堂医院 (R3～) new!!

担当事業

橋渡し研究戦略的推進プログラム／橋渡し研究プログラム

AMED が選定した全国 10 か所の橋渡し研究支援拠点の基盤を活用して、産学連携、拠点外の機関の研究課題を積極的に支援するために必要な人材・設備等を整備するとともに、シーズ育成能力を強化し、日本全体としてアカデミア等による革新的な基礎研究の成果を一貫して実用化に繋ぐ体制を構築します。橋渡し研究支援拠点においては、自機関だけでなく他機関のシーズ発掘と支援を行っており、様々な開発段階にあるシーズを開発段階に応じてシーズ A、B 又は C に振り分け、拠点の機能を最大限に活かす研究支援を実施しています。また、これまでに構築してきた拠点間のネットワークを活かし、拠点間で連携して人材を育成する取り組みや、各拠点の好事例や課題を共有し、意見交換を行う取り組み等を実施しています。令和元年度には、異分野融合型研究開発推進支援事業として、医歯薬系分野以外との異分野融合による医療応用・実用化を目指したシーズの早期支援を開始しています。

※シーズA：特許取得等を目指す課題、シーズB：非臨床POC取得等を目指す課題、シーズC：臨床 POC 取得を目指す課題

補助事業課題一覧

橋渡し研究支援拠点(平成29年度～令和3年度)

国立大学法人北海道大学	新規医療技術の持続的創出を実現するオープンアクセス型拠点形成
国立大学法人東北大学	医工連携を基盤としたオープン・イノベーション・プラットフォーム構築
国立大学法人筑波大学	オープンイノベーションの推進により世界のつくばから医療の未来を加速開拓する事業
国立大学法人東京大学	「知の協創の世界拠点」を目指したTRの戦略的推進と展開
学校法人慶應義塾	基礎臨床一体型モデル／首都圏ネットワーク融合による橋渡し研究推進と革新的医療実現
国立大学法人東海国立大学機構	自立可能な好循環型先端医療開発拠点の創成を目指した研究
国立大学法人京都大学	アカデミア発先端医療技術の早期実用化に向けた実践と連携
国立大学法人大阪大学	戦略的TR推進による自立循環型新規医療創出拠点の実現
国立大学法人岡山大学	健康寿命の延伸を目指した次世代医療橋渡し研究支援拠点
国立大学法人九州大学	地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発

異分野融合型研究開発推進支援拠点(令和元年度～令和3年度)

国立大学法人東北大学	医工連携拠点の支援を活用した異分野融合型研究開発の最適化
学校法人慶應義塾	首都圏ARコンソーシアム(MARC)を活用した異分野融合型研究開発の推進
国立大学法人京都大学	フロンティアサイエンスから医療イノベーション創出を目指すシーズ開発
国立大学法人大阪大学	異分野融合型研究の推進による自立循環型新規医療創出基盤の確立

臨床研究開発推進事業(医療技術実用化総合促進事業)

国際水準（ICH-GCP 準拠）の臨床研究等の中心的役割を担うため厚生労働大臣が承認する医療法に基づく臨床研究中核病院等への支援や臨床研究・治験に関する環境整備等を行っています。ARO* 機能の活用、被験者の安全性を確保した臨床研究・治験の実施、診療情報を用いた研究の質の担保、ベンチャー支援部門を利活用した産学連携を推進するための仕組みの構築や国際展開のための支援等の取り組みを通じて、日本発の革新的医薬品・医療機器の開発等に必要な質の高い臨床研究・治験を推進できるような臨床研究基盤の向上を行います。

* ARO（Academic Research Organization の略）：研究機関、医療機関等を有する大学等がその機能を活用して医薬品開発等を支援する組織。本事業における定義としては、橋渡し研究や臨床研究を含めた研究開発支援事業を実施する非営利の組織や事業実施体等の総称。

補助事業課題一覧

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院	安全性確保に立脚した新規医療技術開発推進に関する研究
国立大学法人東北大学 東北大学病院	東北大学病院における医療技術実用化総合促進拠点構築
国立研究開発法人国立がん研究センター 東病院	国立がん研究センター東病院 臨床研究中核病院整備事業
国立大学法人千葉大学 医学部附属病院	新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト
国立大学法人東京大学 医学部附属病院	承認医薬品を用いた臨床研究の安全性確保と革新的医薬品・医療技術創出の体制強化
学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属順天堂医院	革新的医療技術の社会実装を目指した研究開発支援体制の構築
学校法人慶應義塾 慶應義塾大学病院	世界最先端の革新的医療技術の研究開発を最速で進めるための中核的機能強化事業
国立研究開発法人国立がん研究センター 中央病院	早期開発から後期開発までのシームレスな研究開発支援体制構築事業
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院	臨床研究中核病院機能を安定的に発揮できる拠点づくり
国立大学法人京都大学 医学部附属病院	先端医療技術開発力に基づく革新的医薬品・医療機器等の臨床開発
国立大学法人大阪大学 医学部附属病院	臨床研究中核病院機能の活用による革新的医薬品・医療機器等の創出促進に向けた先進的AROモデルの構築
国立大学法人岡山大学 岡山大学病院	革新的医薬品医療機器等の研究開発を支援する臨床研究中核病院ARO機能強化
国立大学法人九州大学 九州大学病院	支援体制の強化・効率化による革新的医療開発の迅速化

革新的医療シーズ実用化研究事業

革新的医療技術創出拠点プロジェクトにおいて発掘・育成されたシーズ等を、臨床研究中核病院の機能を最大限に活用していち早く実用化に繋げるための研究支援を実施しています。これらの取り組みによって、革新的医療技術創出拠点における基礎から実用化までシームレスに一貫した研究開発を推進する体制が構築されています。

研究開発課題一覧

ARO機能を活用し早期企業導出を目指したアカデミア発医療シーズに関する研究		
PEG化スルファサラジンを用いたがん幹細胞標的治療の開発	佐谷 秀行	慶應義塾大学
備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の臨床への橋渡し研究	東 寛	旭川医科大学
腸管上皮再生作用を特長とする『インジゴ濃瘍性大腸炎カプセル』の治験開始に向けた開発研究	金井 隆典	慶應義塾大学
心臓アセチルコリン感受性カリウムチャネル選択的阻害薬による遺伝性徐脈性難病（KACH チャネルパチー）に対する新規治療法の創出を目指す開発研究	朝野 仁裕	大阪大学
臨床研究中核病院の機能を活用した若手研究者によるプロトコール作成研究		
小児難治悪性固形腫瘍根絶を目的としたNK細胞様CD3陰性細胞を用いた革新的養子免疫治療実現に向けたプロトコール作成研究	川久保 尚徳	九州大学
von Hippel-Lindau病患者の中枢神経系血管芽腫に対するHIF2α阻害剤MK-6482に関する治験プロトコール作成研究	高柳 俊作	東京大学
高齢慢性心不全例の急性増悪期におけるSGLT-2阻害剤投与の有効性に関する検討	中西 弘毅	東京大学
肺Mycobacterium abscessus complex症に対するクロファジミンの有効性及び安全性を検討する医師主導治験実施のためのプロトコール作成研究	南宮 湖	慶應義塾大学
進行再発胃癌に対するiRGD併用化学療法に関する医師主導治験	星野 伸晃	京都大学
血管内皮キサンチンオキシドレダクターゼを標的としたマルファン症候群の新規治療法開発	八木 宏樹	東京大学
進行期脱分化型脂肪肉腫に対するCDK4阻害薬(アベマシクリブ)の有効性・安全性に関する医師主導治験プロトコールの作成研究	山口 さやか	慶應義塾大学
肝内胆管癌におけるリンパ節郭清の意義を検証する医師主導臨床試験実施のためのプロトコール作成研究	楊 知明	京都大学

研究開発推進ネットワーク事業

多岐に渡る臨床研究の支援において、限られたリソースを効率的に活用できるよう臨床研究中核病院とその支援先機関との役割分担と連携等を模索し、臨床研究中核病院内外の機関における研究実施及び研究支援の質向上に向けた人材開発、連携ネットワークの構築を目的としています。また、国民に向けた医学系研究に関する情報発信のあり方について検討し、科学的な根拠に基づき正しく情報発信するノウハウを構築することを目標とし、人材育成に取り組みます。

研究開発課題一覧

1. 国民に向けた医学系研究の情報発信		
医学研究成果をわかりやすく発信する手引きの提案	井出 博生	東京大学
2. スタディマネージャーの育成		
臨床試験段階において試験の準備から出口戦略までの一貫した管理を担うスタディマネージャーの育成システムの開発に関する研究	菊地 佳代子	国立成育医療研究センター
3. 研究計画立案及び実装が可能となる研究支援		
研究計画立案早期からのインタラクティブな多職種協調による高品質の臨床研究計画作成支援体制の構築	南 学	国立循環器病研究センター
小児・周産期領域における臨床研究実施推進のための研究支援	佐古 まゆみ	国立成育医療研究センター
臨床試験を主導する研究者の育成を含む臨床試験支援体制の構築と運用	平川 晃弘	東京医科歯科大学
4-1. RBA※1の実装に向けた実態調査と必要とされる整備、方策等の提案		
治験及び臨床研究におけるQuality by Designの相違調査と求められる体制整備統一方法論の確立	梅村 和夫	浜松医科大学
4-2. 効率的なモニタリングの実施支援に係る取組		
ブロックチェーン技術を用いた効率的で信頼性の高いモニタリング手法の開発	桑原 宏哉	東京医科歯科大学
リスクベースモニタリングの効率的支援システムに関する研究	松浦 晃洋	藤田医科大学
4-3. RBM※2、RBAを取り入れた研究において参加機関に求められる整備等の検討		
臨床研究中核病院以外で実施される急性期脳卒中の特定臨床研究においてリスクベースドモニタリングを実装するために試験実施機関に求められる体制整備に関する検討	福田 真弓	国立循環器病研究センター

※ 1 RBA（Risk-Based Approach の略）：リスクに基づく取組
※ 2 RBM（Risk-Based Monitoring の略）：リスクに基づくモニタリング

実施したイベント

革新的医療技術創出拠点令和二年度成果報告会

革新的医療技術創出拠点では、日本における優れた基礎研究の成果を実用化まで一貫した支援を行うことを目的に、文部科学省が推進する「橋渡し研究戦略的推進プログラム」と厚生労働省が推進する「医療技術実用化総合促進事業」及び「革新的医療シーズ実用化研究事業」を一体的に運用し、質の高い臨床研究・治験を実施する体制の整備を実行してきました。今年度から第2期となる日本医療研究開発機構（AMED）では、6つのモダリティ（医薬品、医療機器・ヘルスケア、再生・細胞・遺伝子治療、ゲノム・データ基盤、疾患基礎研究、シーズ開発・研究基盤）を軸にした統合プロジェクトにおいて、開発された新たな医療技術等を様々な疾患へ効果的に展開していきます。革新的医療技術創出拠点はシーズ開発・研究基盤プロジェクトの一事業として引き続きアカデミアの組織・分野を超えた研究体制の構築を推進していきます。

本年度の成果報告会では、平成27年度のAMED設立以来の革新的医療技術創出拠点が支援してきたアカデミア発シーズの成果、人材育成プログラムを経て活躍する若手研究者を紹介するとともに、企業導出を目指す上で各業界団体が革新的医療技術創出拠点に期待する点などについて報告しました。

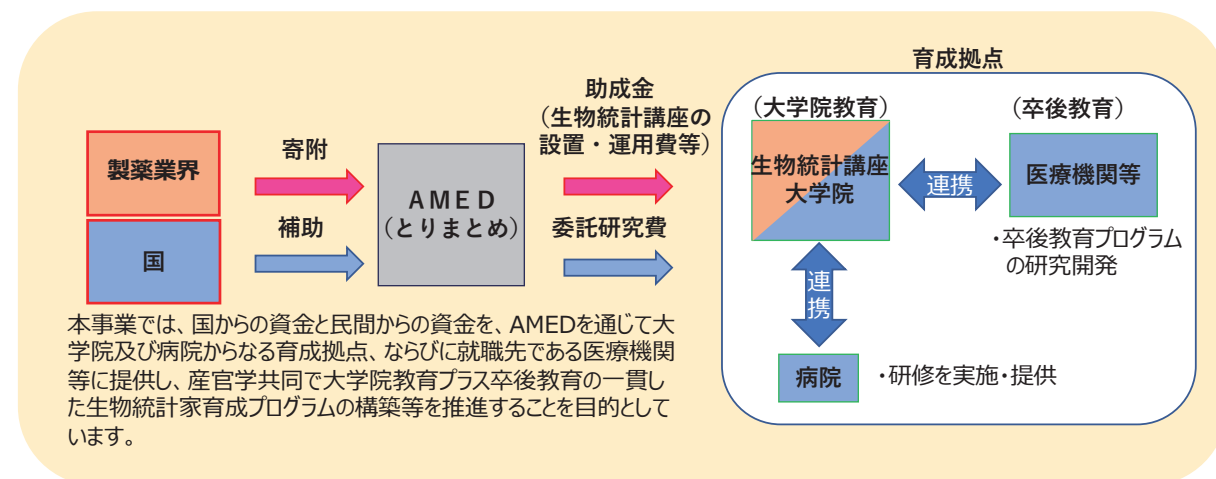
急遽オンラインのみとなりましたが、当日は多くの方にご視聴いただき、盛況のうちに閉会しました。



臨床研究・治験推進研究事業（生物統計家育成推進事業）

令和2年度まで行っていた生物統計家育成支援事業では、それぞれの育成コースにおいて実務家としての生物統計家に必須の理論や実践能力を習得することを目的として大学院教育プログラムの開発を行いました。一方、臨床現場での新しい試験デザインや解析方法の発展は目覚ましく、専門家としてさらなる能力向上を目指すには、大学院教育プログラムのさらなる充実が必要であり、また、大学院終了後のフォローも重要になります。

そこで、本事業においてはこれまでの成果として得られた大学院教育プログラムの活用とその発展拡充を目指すとともに、大学院修了後に卒後教育を加える一貫した生物統計家育成プログラムを作成することで、生物統計家育成の推進を図ります。さらには、本事業期間中に事業終了後の自立運営を図る体制作りにも取り組むことにより、日本の医療機関における質の高い生物統計家の育成に継続して貢献し、質の高い臨床研究・治験の実施へつなげていくことを目指します。



臨床研究・治験推進研究事業（アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業）

令和元年6月に、健康・医療戦略推進本部において「アジア医薬品・医療機器規制調和とグランドデザイン」が定められ、アジア諸国における臨床研究・治験の実施と規制調和の推進の必要性が示されていたところ、令和2年初頭より新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、臨床開発体制の整備がより喫緊の課題となったことを踏まえ、令和2年度補正予算により「アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業」が開始されました。

本事業では、「感染症分野」と「非感染症分野」に関し、日本とアジア諸国が連携して臨床試験実施拠点のネットワーク構築を図るため、海外拠点整備に向けた体制の確立と、アジア共同開発（臨床研究・治験）の実施に向けた国内外の体制・資材整備を推進しています。

認知症等対策官民イノベーション実証基盤整備事業

認知症の対策として、認知機能低下を抑制する医療技術、適切な生活支援サービス、社会受容の促進の重要性が指摘されています。しかしこれらの技術・機器・サービス等の有効性に関する評価手法・指標は未だ確立していません。本事業では認知症に関する評価手法・指標の確立や、生活習慣に対する多因子介入、質の高い技術・機器・サービス等の社会実装に資する研究を推進し、有用な介入法の実証基盤を整備します。さらに、コロナ禍で心の健康の保持増進の必要性がますます高まっていることから、令和3年度から、これまでの認知症に関する取り組みに加え、心の健康の保持増進に関する新規実証研究を開始します。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

Japan Agency for Medical Research and Development

シーズ開発・研究基盤事業部 拠点研究事業課

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-7-1 読売新聞ビル 21 階

<https://www.amed.go.jp/index.html>

拠点研究事業課 TEL : 03-6870-2229

